

SLOC通信-64

NOV.19,2015 — 「学校保健における運動器検診」の取組みについて—

大変お世話になっております。

このたびの市からのオファー大変光栄に存じます。

SLOCは来年4月からの「学校保健における運動器検診」の手順に際し、直接の関与はしておりませんが、JCOA会員を通じ全国自治体、医師会ならびに各県COAの取組みについて、SLOCホームページ上においてブログ形式で随時紹介させていただいております。メインサイトに掲載することで今回のように自治体からの引用のご要望、ひいては教育現場、保護者にまで多数閲覧いただくことを狙いとしております。

http://sloc.or.jp/?page_id=2900

「運動器検診」事業に関しましては、文科省・日医・JOAのみならず内科・小児科医を中心とした現場学校医への配慮を含んだ大変デリケートな問題になっています。

JCOAでは、スタートまで残り4ヶ月という厳しい現況を踏まえ、新井貞男副理事長がイニシアティブを取り、着地点を懸命に模索しておられるところですが、予想通り現場特に学校医の先生方からは議論噴出のようです。

現在までで新井先生は、

- ・「子どもの口コモ予備群」は運動器検診以前に、体育教諭、養護教諭ならびに保護者の段階で事前チェックの上対処する。
- ・事後措置として、問題と思われる児童生徒に関してのみ、学校医を通じ整形外科専門医受診を勧める。
- ・運動器検診ではCDH、ペルテスはじめ整形外科を代表する小児の運動器障害に特化してスクリーニングしてゆく方向で検討したい。

そうすれば対象は約10%程度で、ほどよい着地点になるのではというお考えのようです。

今後ともこの問題につきましてはjmemを通じ忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いに存じます。